

## 「クリエイターの話 ～私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 山口 和加子

### 『素材・和紙との出会い』

物作りの初めは織物でした。織物でマフラーやマットなどを作り初め、それがタペストリーになり、織物にいろんな素材を織り込んで制作していた時に和紙に出会いました。

織物の造形に少し足踏みしていた時期なので、どんな形も自由に表現できる和紙を使う事でイメージが思っているような形に作れて、楽しくなり、それ以後ずっと和紙（紙）を使って作り続けています。

和紙は繊細ですが、強度があり柔軟性にも優れていて、多様な表現をするのに適しています。染色をして蒟蒻糊を塗って使います。竹や金属などの異質な素材と組み合わせ、表現の可能性を試みるのも楽しいです。

現在の私の作品にはいくつかの基本パターンがあり、作品のイメージが決まるとイメージを表す基本パターンを選択して創作します。

創作イメージの源泉は、海、山、花などの自然の風景であることが多いと思います。

私の作品の表現は色を使うことが大事な要素なので、空・雲・山の景色、海の波、花々などを見て色調やイメージを決め、自分の作品のモチーフ・技法を使い制作していきます。

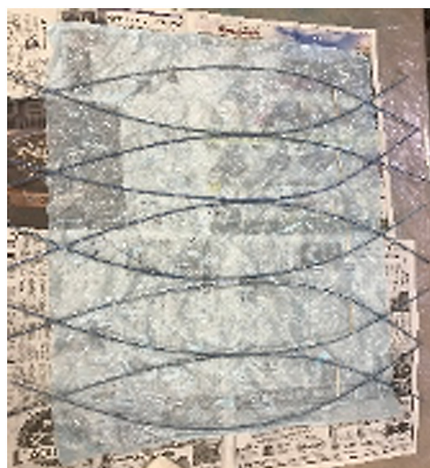
吉田淳子さんと共同制作をしていた頃は、紙紐などを芯にして五匁目くらいの和紙を巻きつけ並べてねじる表現や、薄い和紙に線香で穴をあけて2枚重ねていく作品などのいろいろな方法で作品を作っていました。

一人で制作するようになって何を作りたいか考えた時、薄い和紙を使って透け感のある表情を表現したいと思い、2本の竹ひごを組みそこに雲龍氏（薄い和紙）を貼って出来た形を連続させていく作品を作りました。

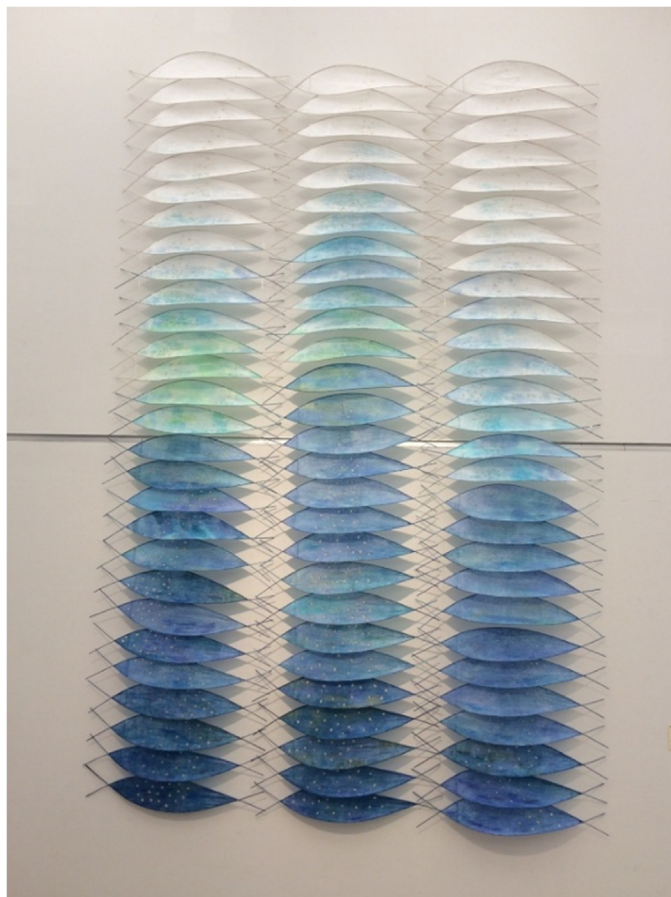


「連なる」

同じ竹ひごに薄和紙を貼り裏にトレッシングペーパーを貼り合わせてみました。洋紙と和紙の糊を付けた後のテンションの違いで竹ひごに貼られた面がピンと反り返り、面白い緊張感が出るのに気が付きました。それを縦に重ねると1枚1枚の間に空気感が出て緊張した空間を作ることが出来ました。

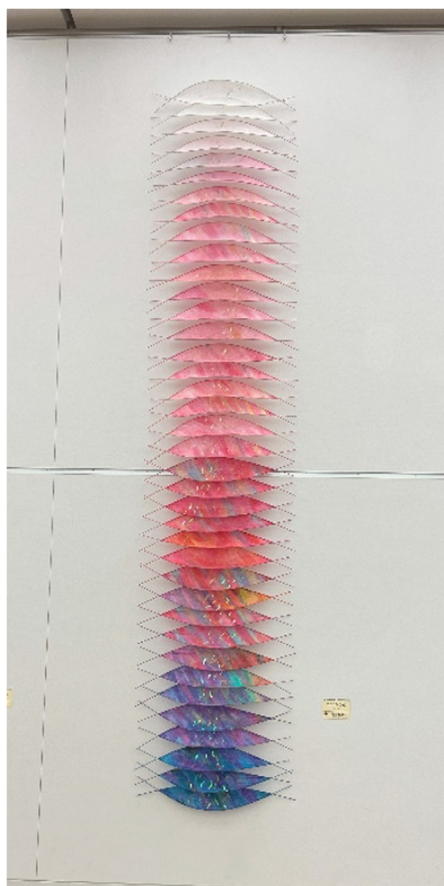


このシリーズの1作目が下記の波際を表現した作品です。



「波のように」 360×230×8cm 2015年

このシリーズで横に並べたり、一列にシンプルに表現したり、立体的に重ねたりと、いろいろと構成を変えて何作か創っています。



「つらなる」Red 360×85×25 cm 2022年





「幻想の森」 380×220×65 cm 2024年



円形の会場に設置 2024年

和紙には厚みや風合いの違う様々な紙があり、作品のコンセプトや形式によって使い分けます。  
新制作展に出品した技法の異なった作品を3点えらびました。



「集く」 125×190×8cm 2019年

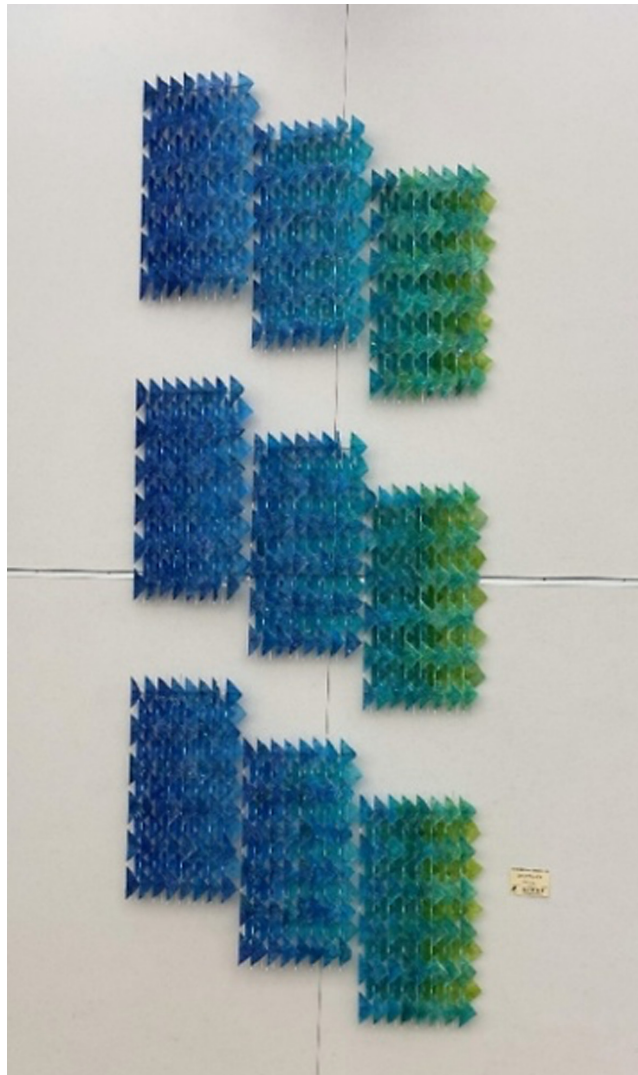
アルミ板に和紙を貼って一つの単位を作りそれを重ねました。  
金属に紙を貼ると何だかおもしろい表情になりました。



「時の流れ」 80×240×6cm 2020年

厚い和紙を使ってその断面を出しています。





「シェアブレイク」 440×145×10 cm 2023年

サーフィンの大きな波のトンネルの海の色を表したくて、薄い雲龍紙とトレッシングペーパーを使って透けた感じの透明感にこだわり水の表情を表わしました。

美術館は天井が高いので長さのある作品を制作することが多かったのですが、年齢も重ねてきて大きな作品を制作することがだんだん大変になってきました。私の座右の銘は「継続は力なり」なので、創作意欲のある間は、大きさに関わらず、少しずつでも制作を続けたいと思っております。



- 1985・1987 新制作展入選 (東京都美術館)  
1986 ドイツ JUGEND JUSTALER 入賞  
1990・1996・1999・2001・2005  
山口和加子・吉田淳子展  
(ワコール銀座アートスペース)  
1993～新制作展 (山口和加子 共同制作)  
(東京都美術館 / 国立新美術館 / 京都市美術館)  
1995 第59回新制作展新作家賞受賞  
(山口和加子・吉田淳子)  
1998 ORIE 現代アート100  
(草月ギャラリー) (共同制作)  
素材を追って 繊維によるころみ'98  
(世田谷美術館 グループ展)  
2000 新進作家タピストリー6人展  
(ORIE ギャラリー) (共同制作)  
第21回インパクトアートフェスティバル  
(京都市美術館) (共同制作)  
2002 ARTWORK ARTWARK 1/2/3 (銀座月光荘)  
2003 素材でつくる空間 FIBER WORKS “山荘”  
(リビングデザインセンター OZONE)  
2004 9人展 NEGA⇄POJI  
(マキイマサルファインアーツ)  
2005 TEKILE 05 KAUNASU ART BIENNIAL 入選  
(リトアニア) (共同制作)  
2006 素材との出会い fiber/textile 5人展  
(銀座画廊るたん / 益子 Kyohan six galley)  
2007 空間の彩展 (銀座画廊るたん)  
2008 山口和加子 吉田淳子展 和紙による造形—  
(千疋屋ギャラリー)  
ミニアートテキスタイルコモ入選  
(イタリア) (共同制作)  
2011 Reconsider —ファイバーアートの世界で—  
(千疋屋ギャラリー)  
2014・2016・2018 Reconsider II III (いりや画廊)  
2029 グループ展 (銀座煉瓦画廊)  
2020 Reconsider V (いりや画廊)  
2023 日本国際芸術祭 命の共創 醍醐寺展出品 (醍醐寺)  
2024 日本国際芸術祭 仁和・クラフトアート展出品  
(仁和寺)  
2025 山口和加子 吉田淳子 和紙アート～色を遊ぶ～  
(ギャラリー日比谷)  
新制作協会会員

○SD 通信 Vol.62 『クリエイターの話 ～私のイメージの源泉』山口和加子 編は如何でしたか。

和紙による作品のイメージの源泉は、海・山・花などの自然の風景とのこと。移ろう色彩と形の連続性が魅力的で心が和みます。和紙素材が様々な技法と出会い表現につながるプロセスを沢山見せていただきました。皆さんの印象などお聞かせください。

◆山口和加子さんの情報は新制作協会ホームページにも掲載されています。

→ <https://www.shinseisaku.net/wp/archives/5572>

◆SD 通信 Vol.30 「私を創ってくれた3つの作品」山口和加子編はこちらでご覧いただけます。

→ [https://www.shinseisaku.net/wp/wp-content/uploads/2023/08/SDcommVol30\\_The-three-works.pdf](https://www.shinseisaku.net/wp/wp-content/uploads/2023/08/SDcommVol30_The-three-works.pdf)